

## 平成27年度 第1回 平塚市図書館協議会 会議記録（要旨）

開催日時	平成27年8月6日（木）13時57分～16時19分
開催場所	平塚市中央図書館 3階ホール
出席者	委員 加藤 憲一 会長 古根村 政義 副会長 桑原 裕彦 委員 跡部 左恵 委員 杉田 詩子 委員 小林 耕平 委員 事務局 鈴木高雄社会教育部長 見留俊也中央図書館長 丸島隆雄北図書館長 脇孝行西図書館長 富田和博南図書館長 所雅人管理担当長 菊坂伸江奉仕担当長 小泉明子館長代理 山田剛弘 主管
傍聴人	2名

### 会議の概要

- 1 委嘱状交付 金子教育長から今回就任した6名の委員に委嘱状が交付された。
- 2 教育長あいさつ

【要旨】 平塚市の図書館協議会は昭和32年4月に発足した歴史のある協議会である。今回、委員構成の見直しを行い、全員が新任となったが、いずれの方も歴史のある平塚市図書館協議会委員にふさわしい方々である。図書館を含む教育関係の予算は年々厳しくなっているが、施設の老朽化や来館者数の減少などの課題の解消に向けた提案を期待する。

### 3 委員あいさつ

各委員が就任にあたり抱負を述べた。

【委員】 平塚市は大学が2つ。図書館の他に美術館や博物館があるが、市民は文教都市という実感が少ないと思う。工業、商業、農業などバランスが取れた都市だが、これに加えて文教都市の実感が湧くような街づくりに寄与したい。

【委員】 私の職員キャリアは平塚から始まった。その後、県立図書館に移り、一時期平塚を担当したが、定年を間近にして、また十数年ぶりに平塚市に関わる機会をいただき本当にうれしい。

【委員】 先日、詩人の工藤直子さんの演劇を実演した。子どもたちが本に親しむ環境づくりが重要なことを実感した。学校現場の声を図書館に反映できるようにしたい。

【委員】 地域の子ども読書活動推進協議会の代表を長く務め、昨年度は子ども読書活動推進懇話会の構成員として関わったが、まだまだ勉強の最中だと思っている。微力ながらお役に立ちたい。

【委員】 学校図書館でも、中学生になると本を読む子どもが限られている。常に多くの生徒が使える図書館を目指しているが、ここでも多くの人が利用できるような図書館の提案をしていきたい。

【委員】 厚木市の図書館で23年、綾瀬市の図書館で5年、さまざまな立場で図書館業務に尽力したが、最後に一市民として図書館のために役立ちたいと思っている。

#### 4 職員紹介

金子教育長から、職員が各自自己紹介を行った。

#### 5 会長・副会長選出

委員互選により、加藤委員が会長に、古根村委員が副会長に選出され、就任にあたって会長があいさつを行った。

**【要 旨】** 学識経験者と言っても普段は図書館以外のことを研究している。先日、事務局から他の委員の略歴を伺ったが、どの方も図書館や読書活動に関して素晴らしい経歴を持つ方ばかりである。私が提案するというよりも、各委員の知識や経験を引き出すような議事に努めたいと思っている。

平塚市民は、平塚市内で生活が完結している方が多いが、平塚駅から東京や横浜に通勤するような方もかなりの割合でいると思う。

こうした方にもう少し目を向けた図書館サービスを展開しないといけないのではないかというのが1点。

もう1点は、紙の書物も大事だが、タブレットやスマートフォンにある活字を読むというのもひとつの読書の形態となりつつあるので、資料の電子化に対する取組が必要ではないかと思っている。

思っているだけでは駄目なので、この会議に出席している事務局を含めた専門家の力を借りて少しでも形にしたいと考えている。御協力をお願いする。

#### 6 議 事

##### (1) 平成26年度平塚市図書館費歳入歳出概要

**【事務局】** 資料1「平成26年度平塚市図書館歳入歳出概要」を基に説明を行った。

**【委 員】** 総額で約600万円昨年度に比べて増額になっており、ターボ冷凍機の熱交換チューブの500万円が増額の理由という説明があったが、中央図書館管理事業は約810万円増額になっている。その他の理由を伺いたい。

**【事務局】** 景気の回復と消費税率の上昇により、原材料費や人件費が高騰しており、影響がそのまま出た結果だと考えている。今年度も委託料の入札の不調や、特に修繕費は第一四半期で使い切ってしまった状況なので、さらに増額となる見込みである。

**【委 員】** 平塚市では図書館ごとに資料費を計上しているが、各図書館の概ねの資料費を御教示いただきたい。

**【事務局】** 資料費は備品購入費に含まれるので、この数字が全て資料費だとすると、中央図書館で約2,231万円、北図書館で約313万円、西図書館で約436万円、南図書館で約403万円である。

**【委 員】** 各図書館で選書を行っているのか。

**【事務局】** 勿論、各選書担当で連絡を取り合っているが、各地域の特色を出すためそれぞれの図書館の司書がおり、選書を行い、資料を購入している。

**【委 員】** 経験上、年間300～500万円程度の予算では、特色を出すというのは不可能だと思う。中央図書館で一括して購入した方が効果的だと考える。

**【事務局】** 実際のところ特色を出すまでには至っていないが、地区図書館の司書がそ

それぞれの館ごと例えば「南図書館なら海の本」といった具合に地理的特徴や利用者層に合わせた選書や展示などを行うなど努力している。

【会 長】 歳入の部分で、ホールやコピーの利用など図書館は年間300日程度開館している割には少ないと感じたが、もう少し増やせないのか。

【事務局】 ホールは、ここでの会議の他、図書館事業で土日はほぼ使用されている。空いている日がたまたま希望に合致した場合に有料で貸す程度である。またコピーも著作権等の絡みもあり、コンビニのように何十枚も利用することはできない。

【会 長】 承知した。

## (2) 平成27年度平塚市図書館事業

【事務局】 資料2-1「平成27年度図書館事業計画」資料2-2「平和の本目録」を基に説明を行った。

【委 員】 ブックスタートは妊産婦に向けてPRを開始したが、参加率の増加などの効果は見られたのか。

【事務局】 既に今年の初めから働きかけを行っており、今年度の参加率は増加傾向にある。

【委 員】 ブックスタートの参加率の目標は58%で昨年度の実績は51.2%である。目標を達成するためには健診の際に、絵本を配布するだけで容易に達成できると考えるが見解を伺いたい。

【事務局】 平塚市の場合は、健診は1歳半であり、ブックスタートの推奨月齢を過ぎている。また、ただ絵本を配るだけでなく、家庭での読書の実践や、図書館の赤ちゃん向けのおはなし会のPRなども並行して行っていきたいと考えている。

【事務局】 第2子以降に限れば、委員の提案のとおり、健診の際に絵本やチラシを配る方法も実施率を高めるためにはひとつの方法だとも考えている。

【委 員】 「平和の本」だが、子ども向けにも相応しい内容が選ばれていると思う。公共図書館よりも、市内の小中学校の平和教育用の副読本として配布した良いと思う。

【事務局】 各学校にも1冊ずつ配布している。

【委 員】 各クラスに1冊ずつ配布しても良い内容だと思う。

【事務局】 図書館に必要部数をお知らせいただければ送付する。

【委 員】 さきほど各図書館で、テーマに沿って選書をして、この平和の本などの展示などを行っていると言ったが、地区図書館でもこうした冊子を作成し展示しているのか。

【事務局】 中央図書館では季節ごとに本の展示は行っているが、地区図書館では、窓口業務が手一杯でリストの作成などまで手間が回らないのが実状である。

【委 員】 この平和の本の目録はよくできていると思うが、南図書館の海に関する本の展示などは司書の専門知識が生かされているとは言い難い。

【事務局】 専門家が見れば、確かに古い本を並べただけだと思うが、資料費も人も少なく、何ともしがたい。

【委 員】 せっかく各図書館に司書がいるので、それぞれの図書館のテーマの本のリスト作成や、展示の更なる工夫をされた方が良いと思う。

【会 長】 他になければ私から、事業を時期や市の計画ごとに表にまとめたのは良いが、内

容は前年度とほとんど変わらないものだと思う。この他でも良いが、今年度新規に実施する事業はないのか。

【事務局】 報告が漏れていたが、夏休みの最後の週に、中高生向けのグループ学習用に会議室を試行的に開放することを予定している。

【会 長】 対象はグループの中高生だけなのか。

【事務局】 学生であれば個人でも可とする予定である。

【会 長】 他でも同様の報告を行っていると思うが、知りたいのは昨年度との違いや新たに開始した事業だと思う。こうした点に絞って説明いただけるとありがたい。

### (3) 近年の図書館の利用状況

【事務局】 資料3「近年の平塚市図書館の貸出点数」「近年の平塚市の来館者数」ほかを基に説明を行い、各地区館長と奉仕担当長から補足を行った。

【北館長】 年々、来館者や利用者数が減少していると実感している。利用者の割合は常連を中心に高齢者が増え、次に子育ての親子もいる。先日、NHKの大河ドラマに関連した閉架の本を展示したところ多くの利用があった。資料費が削減されているので、今ある資料を有効に活用する取組が必要となると思う。少しずつだが減少に歯止めをかけることができるように今後も努力していきたい。

【西館長】 利用者の減少に対して、他館に比べ雑誌が弱いので、今年度は購入雑誌の見直しを実施した。利用の多い子育て世代や高齢者を対象にした育児関連や総合週刊誌を新たに加えた。

【南館長】 予算が削られて、それが資料費に跳ね返る財政構造が変わらない限り、図書館事業の目安である貸出点数の増加を図ることは難しいと考えている。

【奉仕担当  
長】 障がい者に利用しやすいサービスなどをPRする。子ども向けのレファレンスの充実を図るなどこれまで同様に努力を重ねていくしかないと考えている。

利用の減少は、返却ポストを増設した結果。返却の際に再度借りるというサイクルがなくなったことがひとつの要因だと考えている。

【委 員】 過去の図書館勤務の経験上、貸出点数は、1人あたりの貸出点数を増やす。あるいは制限を設けないことで増やすことができる。平塚市では、1館あたり7冊だが、市内の図書館を渡り歩くような方は少ないので、通常はどこかの館で1度に7冊借りるのが一般的だと思う。平塚市の周辺都市では1人あたり10冊が一般的であり、県内では綾瀬市、座間市、大和市のように制限がない図書館も出て来ている。

同じ人が何冊も借りてしまうことは不公平だということで冊数制限をしていると思うが、先ほど閉架の本を展示して、需要を掘り起こす事例を紹介していただいたが、制限を緩和して閉架している本を貸出に出す取組を進めた方が、リピーターだけでなく、図書館は利用をしていないが、税の面で図書館を支えている市民に対しても公平であり、喜ばれることになると思う。

【会 長】 図書館で閉架になっている本の割合を御教示いただきたい。

【事務局】 中央図書館では約半数の本が閉架となっている。

【委 員】 閉架になっている本は、検索システムでしか探すことができないが、実際に

利用者が手に取ると借りてくれる本が多々あると思う。以前勤務していた図書館では書庫を見学してもらい、閉架になっている本を見てもらって利用を増やしたことがある。図書館探検は小学校の社会見学のメニューにもなっているが、学校からも人気があるメニューだと聞いている。

平塚市では大人の図書館体験なども実施しているが、こうした機会に書庫で閉架になっている本に触れる機会を設けるべきだと思う。

【委員】 小学校の社会見学でも普段人が立ち入らない場所は大変人気がある。図書館探検なども企画すれば大人にも人気が出ると思う。

【事務局】 1日図書館員体験などの小学生向けの企画でも書庫は案内するが、閉架している本を見せて貸出に結び付けることはしていない。検討はしてみたい。

【委員】 返却ポストが出来たことにより、中央図書館で借りても、いつでも近くの公民館のポストで返却できる。私は利用の減少とは直接関係ないと思う。子どもや障害者に利用しやすい図書館と言われるが、全ての地区館長から言うように高齢者の利用の割合が増えている。「高齢者が来館しやすい環境づくりを行う。」「身近な生活支援活動として福祉村を通じて本を配送するサービスを展開」などが、利用を増やすことに直結すると思う。今のように、子どもや特定の障害を持つ方向けのサービスを続けても対象者が限定される。同じように取組んでも成果は少ないと思う。

【委員】 県立図書館は貸出点数が長い間減少傾向だったが、横浜駅の近くに予約本の受取りや返却などができるサービス拠点設置により歯止めがかかりつつある。貸出点数も開設して間もないが県立本館約7万冊に対して約1万4千冊と2割程度に達し、夜9時までオープンしていることもあって、時間に余裕のないビジネスマンにも好評である。空いたスペース程度でサービスを提供できるので、会長から提案があったこれまで図書館を利用する機会の少ない層に対応できるサービスだと思う。

【事務局】 返却ポストも以前、駅の構内に設置を検討したが、1㎡にも満たないスペースだが、諸経費を含めると高額な経費が必要なため諦めた経緯がある。駅前の夜間サービス拠点は、子ども読書活動推進計画（第三次）のパブリックコメントなどでも要望があったが、再開発などで新たに公共施設が入る機会がないと難しいと考えている。

【委員】 会長からもうひとつ提案のあった資料の電子化だが、国会図書館のデジタルアーカイブサービスの導入の実施が有効だと思う。デジタル書籍は貸出対応ができないので、現物貸借を希望する少数の利用者の要望を満たせないが、古典作品で貸出需要のあるものは、全集などに収録されており、その他の大半の方々は、事実確認のためにその一部を利用するという形態がほとんどであるように思われる。また県内相互貸借に頼ることが不要になること。貸出利用が想定されない閉架本も大量に出ると思う。古い本は一度除籍すると再入手が困難であるため決断できない心理は理解できるが、特に中央図書館は、閉架の本の冊数や割合が多過ぎると感じる。重複している部分は思い切って除籍し、書庫などのスペースを有効活用すべきだと思う。

平塚市の図書館であれば、国会図書館のデジタル送信サービスの導入は、登録できる資格は整っており、複写要綱等の条件整備ができれば、パソコンシステムの追加導入だけで済む。地区図書館にも導入可能で、小規模な図書館では、100万円未満で導入に成功した事例があると聞いている。

【会 長】 昨年度、平塚市子ども読書活動推進計画（第三次）のパブリックコメントを実施した際に、計画よりも、図書館サービスに関する意見が多く寄せられた。こうした声を反映する機会が少ないのが理由ではないかと感じた。駅前のサービス拠点は、実現には予算の制約がありハードルが高いと思っているが、このような利用者ニーズを分析するため、アンケートなどの実施状況を伺いたい。また、地区図書館の3館の貸出点数と来館者数は、完全に比例していない気がするが、各館の傾向などをこれまでどう分析されているのか。

【事務局】 利用者の個々の御意見、御要望に関してお答えはしているが、アンケート調査のように、何年かに一度調査し、年齢別などに応じて分析するようなことは、近年実施していない。

【事務局】 御指摘のように西図書館は来館者が多く、南図書館は貸出点数が多い。北図書館は貸出点数の割に来館者が多いが、これまで館内で分析を行ったことはない。

【会 長】 委員から色々提案をいただいたが、貸出点数の制限の緩和の提案も、全体の今まで枠内の7冊まで借りている人の割合の数字がないと先に進まない。全体の利用増の提案も、どの年齢層の人が平均何冊借りているのか。そもそも本当に子どもの利用が減って高齢者が増えているのかが分かる数字がないと難しいと思う。可能な限りで良いがこうした数字の提供をお願いし、次回以降検討することとしたい。

【事務局】 色々提案をいただきながら明確な回答ができず申し訳ない。利用者ニーズの分析が不十分であると改めて実感した。いただいた提案の中には、予算計上やシステムの改修、規則の改正が必要と思われる提案もあるので、次回以降精査してお答えしたい。

#### （4）今期のテーマ及び今後の開催予定

【事務局】 資料4-1「平成25・26年度平塚市図書館協議会報告書」資料4-2「平成27・28年度平塚市図書館協議会事業計画（案）」を基に説明を行った。

【委 員】 利用の拡大を図る上では、高齢者は、これまで子どもや障害者に比べて検討されていないと思うが、一番利用が多い。どこかで時間をかけてやる必要があると思う。

例えば、「健康・介護予防の本のリストづくり」「高齢者施設への訪問サービスの強化」などいくつか検討すべきことはあるかと思う。

【会 長】 私もそう思う。高齢者だけにこだわる必要はないが、ターゲットを絞ってサービスを展開することは、業務全体の分析が必要になり、結果としてターゲットだけでなく全体の業務の改善とサービスの向上につながる。

今年度は、ここで策定した子ども読書活動推進計画（第三次）の最初の1年

で、2年後には中間評価も予定されている。現場の図書ボランティアや学校の理解はどうか。

【委員】 計画の策定により情報交換の機会などが増えて、行政と図書ボランティアの風通しは良くなった感はあるが、計画が各中学校区の子ども読書活動推進協議会の事業までに反映されているとは言い難い。

【委員】 図書ボランティアさん一人一人は熱心な方で、それぞれ想いがあって素晴らしい活動をされているが、お子さんが卒業されてOBの方が多くなり、担い手が育ってない気がする。図書ボランティアさんも同じ意見が多い。ただ委託金という公金を処理にあたって、それぞれの活動に自由にあてることができない。このあたりは図書ボランティアさんそれぞれでも考えが違うので学校でも苦労することが多い。

【事務局】 そこは、昨年時間をかけて検討し、柔軟に対応してきた。各中学校の協議会ももう少し休会することを予想していたが、1協議会で済んでいる。

学校側や地域にも協力をいただき柔軟な支援体制づくりでは一定の成果は出ていると考えている。

今後、担い手不足の解消や各協議会での事業の充実につながるような支援を検討していきたい。

【会長】 子ども読書活動推進計画に話が逸れてしまったが、他になければ事業計画（案）に加え、今日もいくつか出た提案を次回以降で検討を進めていただけるようお願いする。

【事務局】 前期の協議会でも委員から多くの提案をいただき随時検討を行っている。今期も同様としたい。また意見が多く出た歳入と歳出も、人件費も含めて行う予定である。検討をさらにすすめることができると考えている。

## (5) 今後の予定

【事務局】 9月30日（水）14:00からこの会場で㈱図書館総合研究所の佐藤達生社長を講師として招き勉強会を予定している。

次回の図書館協議会は11月13日（金）の同じ時間を第一候補に予定している。会場はこちらを予定しているが、金曜日は事業の準備等もあるため市庁舎等も含めて変更する可能性がある。決定次第連絡する。

## 7 閉会

【事務局】 まず、さまざまな視点から検討をいただき感謝する。今日は今までこれで良いと思っていたことを変化させていかないといけない点をいくつか指摘をいただいたと思っている。この変化を積み重ねていくことが、市民に利用されて親しまれる図書館につながっていくと思う。委員各位には今後とも忌憚ない提言をお願いしたい。

【会長】 閉会を告げた。

以上